

科目名 (科目番号)	臨床実習Ⅲ (画像技術) (時間割参照)	教員名	診療放射線 学科教員	学科等	診療放射線	必修	履修年次	4
				曜日・時限等	時間割表参照	単位数	4	
				授業形態	実験・実習	オフィスアワー	各担当教員シラバス参照	
授業概要	診療画像技術学分野で学んだ事柄のうち、主にデジタル画像装置、X線CT、MRIおよび超音波検査等で用いられる装置の取扱い、各種の画像検査法と適応疾病および診断の特殊性について演習を通して理論的に体系づけを行い、様々な画像診断に迅速に対応できる能力を身につける。また診療画像技術学関連の国家試験問題への対応をはかるとともに、診療放射線技術の現状と課題に関する認識を深め、探究する能力を養う。							
目的・目標	目的：X線CTやMRI、超音波検査、眼底検査に必要な基礎知識と実技を学ぶ 目標：臨床実習に役に立つ知識と実践を身につけ、国家試験と結び付けて覚える							
準備学習	毎回の授業の到達目標と学習内容を十分に理解しておくこと。							
授業計画	授業項目			到達目標・学習内容				
	到達目標： 1 実習の目的を明確にできる。 2 患者の様態に応じた適切な接遇ができる。 3 検査内容を患者に説明できる。 4 X線CT撮影を理解する。 5 磁気共鳴画像（MRI）の撮影を理解する。 6 磁気共鳴画像（MRI）の撮影に関する危惧を説明できる。 7 超音波検査を理解する。 8 眼底検査を理解する。 9 画像検査を理解する。 10 画像の電子保管業務を実施できる。 11 実習の成果をまとめ、報告する。 学習内容： この実習では、主に人体各部位のX線CT検査、磁気共鳴画像（MRI）検査および超音波検査などの実際を経験し、検査技術や画像読影能力など臨床に必要な知識を身に付けられるよう積極的に行動し、習得できるよう実習に臨む。また、各モダリティにおいて適切な検査前確認や患者状態に応じた適切な接遇など医療安全に関する具体的な対策や方法を理解し、自ら行動できるよう身に付ける。そのほか、各モダリティでどのように他職種連携を行っているのか体験し、コミュニケーション能力の重要性を認識するとともに身に付けられるよう積極的に行動する。							
成績評価の方法・基準	学内実習の成績(40%),実習記録および臨床実習先からの評価(60%)で評価する。							
教科書	MR・超音波・眼底 基礎知識図解ノート 第2版 診療放射線技師 マスター・テキスト 上巻, 下巻 診療放射線技師 臨床実習問答例集			新津守, 磯辺智範 梁川功, 高井良尋, 石橋忠 福土政広 監修, 柳田智 編集		金原出版株式会社 メジカルビュー 医療科学社		
参考図書	図解 診療放射線技師実践ガイド第4版 診療放射線技師 臨床実習テキスト			遠藤啓吾 遠藤啓吾, 杜下淳次, 中村康彦		文光堂 文光堂		
教員からのメッセージ	学内で実施したCT検査・MRI検査・超音波検査などの実習を思い出し、実践に臨んでください。実習病院のスタッフや患者さんとコミュニケーションを積極的に取り、医療人として、また社会人として必要な能力を身に付け、就職活動にも活かしていけるよう頑張ってください。							